

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 渡部 淳

研究課題		教師の研修システムおよび教材開発に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>参加型・獲得型アクティビティを効果的に運用し、生徒の主体的な学びを深めることのできる教師をどう養成するのか、それは日本の教育にとって大きな課題である。</p> <p>この課題にアプローチするために、申請者は、過去16年間にわたって、教材開発を通して実践的に教師の資質形成を図る実験的プログラムの運営、研修プログラムの内実を形成する参加型アクティビティの体系化作業などを続けてきた。</p> <p>平成30年度には、さらなる研究の深化を目的として、アクティビティを導入したオリジナル教材の開発とそれを用いた公開実験授業の実施、文献調査や訪問インタビュー調査などを通じて理論的・実践的な考察を行った。</p>
	研究の 結果	<p>「教材開発・教師の資質形成」と「アクティビティの体系化」作業に関しては、これまでに以下のような一定の研究成果を公刊している。すなわち、渡部淳『教師 学びの演出家』旬報社2007年、『教育方法としてのドラマ』J.ニールンズと共著、晩成書房2009年、渡部淳編『教育プレゼンテーション 目的・技法・実践』旬報社2015年など、8冊の本がそれである。</p> <p>現在は、アクティビティの範疇(カテゴリー)を5つに分類するプランを採用し研究を進めているが、具体的領域としては、①リサーチワーク、②ディスカッション/ディベート、③プレゼンテーション、④ドラマワーク、⑤教師の身体技法(ウォーミング・アップのスキルを含む)の5つである。平成29年度にこれまでの研究を総括する博士論文「獲得型教育に関する理論的・実践的研究」(全443頁)を文学研究科に提出したが、さらに平成30年度中に研究成果物として2冊の編著を刊行した。</p>
	研究の 考察 ・ 反省	<p>上記の5つのアクティビティのうち、①-③は、参加・獲得型学習の軸になる領域として認知されるようになったが、④、⑤は、実践・研究の両面において開拓途上である。とりわけ「ドラマワーク」は、まだ日本の教育界において研究・実践の蓄積が乏しい領域であることから、ドラマ・アクティビティの体系化とそれらの普及の方策についての研究に特に力を注いだ結果、併せて10冊の書籍にみられる通り、一定の成果を収めてきた。</p> <p>12年をかけたアクティビティの体系化作業が終了したことから、今後は主として5つの範疇のアクティビティの総合的活用に関する研究とそれを可能にする教員研修のプログラムの開発について、模索を続けていきたいと考えている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表： 「グローバル時代の市民像を問う」日本国際理解教育学会第28回大会・特定課題研究「国際理解教育における理念研究、方法研究の現段階」報告者：渡部淳、宇土泰寛、山西優二 2018年6月17日(宮城教育大学)</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>研究成果物： 渡部淳+獲得型教育研究会編『AL型授業が活性化する 参加型アクティビティ入門』、学事出版、2018年7月(全159頁 執筆16名) 渡部淳編『教育の方法・技術論』弘文堂(Next教科書シリーズ)、2019年2月(全206頁 執筆9名)</p>	